

日々是Oracle APEX

Oracle APEXを使った作業をしていて、気の付いたところを忘れないようにメモをとります。

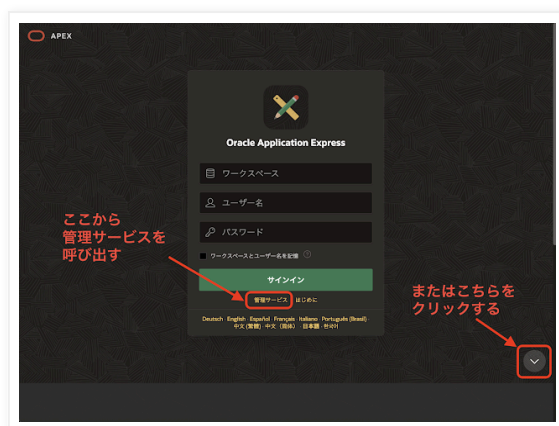
2022年3月10日 木曜日

Autonomous Databaseでのワークスペースの追加作成

(2022年7月22日追記 - Autonomous DatabaseのAPEX 22.1よりワークスペースの作成手順に変更があります。変更された手順の説明は、[こちらの記事](#)になります。)

以前にも書いていると思うのですが、改めてAutonomous DatabaseのAPEXにて、ワークスペースを追加作成する機会があったので、実施手順を記載します。

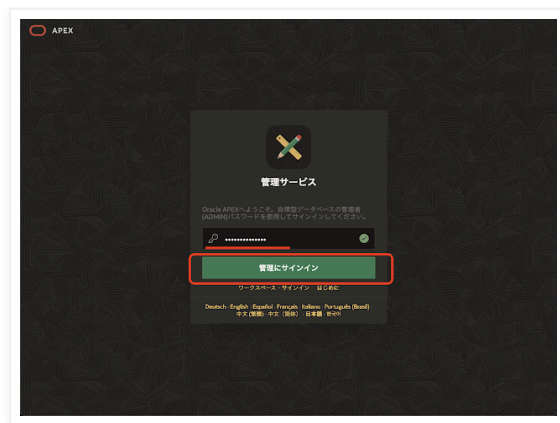
最初に管理サービス呼び出します。**サインイン**のボタンの下にある**管理サービス**のリンクをクリックするか、画面の下部を表示させます。



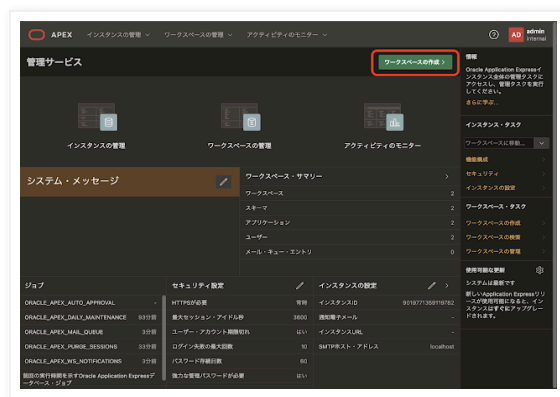
タスクの管理をクリックします。



管理サービスへのサインイン画面が表示されます。Autonomous Databaseの管理ユーザー**ADMIN**のパスワードを入力し、**管理にサインイン**をクリックします。



サインイン後に開いたページにある**ワークスペースの作成**をクリックし、ワークスペースの作成作業を開始します。



または**ワークスペースの管理**から**既存のワークスペース**を開き、**ワークスペースの作成**をクリックします。



ダイアログが開きます。

データベース・ユーザー、**パスワード**および**ワークスペース名**を入力します。データベース・ユーザーはすでに作成済みのデータベース・ユーザーを選ぶこともできます。その場合はパスワードの指定は不要です。ワークスペース名はデータベース・ユーザーと異なる名前にすることもできます。デフォルトでは同じ名前になります。

ここで指定したデータベース・ユーザーは、作成したワークスペースの**最初の管理ユーザー**になります。

詳細を開くと、**ワークスペースID**の指定が現れます。異なるAPEXのインスタンス間でワークスペースIDを一致させる必要がある場合に指定します。例えば、異なるインスタンス間でアプリケーション開発を行なっていて、それぞれのインスタンスからエクスポートしたアプリケーションの差分を取る要件がある場合は、ワークスペースの作成時に同じワークスペースIDを指定します。

今回は**データベース・ユーザー**として**HR**、**ワークスペース名**として**HR**を指定し、**ワークスペースの作成**をクリックします。

ワークスペースの作成

新規ワークスペースで使用する新規または既存のデータベース・ユーザーを指定してください。

* データベース・ユーザー:

* パスワード:

* ワークスペース名:

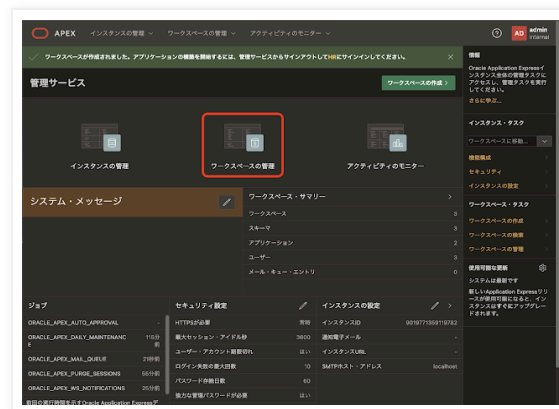
▼ 詳細

ワークスペースID:

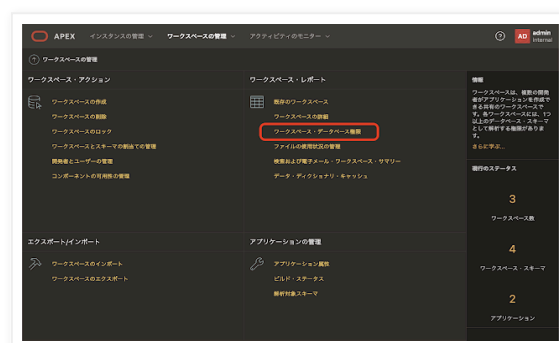
ワークスペースHRが作成されます。データベースには、データベース・ユーザーとしてHR、つまりスキーマHRも同時に作成されています。

作成されたデータベース・ユーザーがどのような権限を持っているのか確認します。

ワークスペースの管理を開きます。



ワークスペース・レポートのワークスペース・データベース権限を開きます。



ワークスペース・データベース権限の一覧は対話モード・レポートで表示されます。アクションのフィルタとしてワークスペース = HRを指定して、スキーマHRに割り当てられているデータベース権限を確認します。

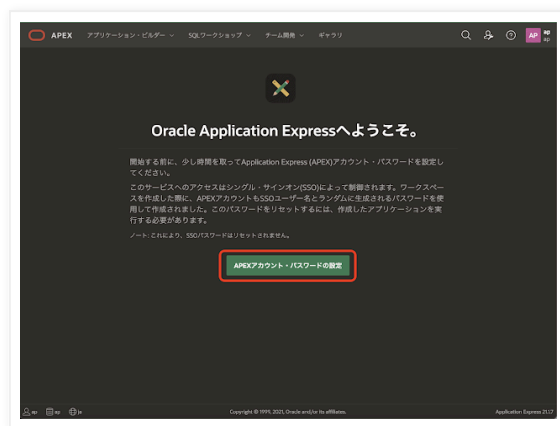
ワークスペース名	スコープ	セキュリティグループID	ID	権限	管理アクション
ワークスペース名1234	HR	91874679888600005	91874679888600005	CREATE MATERIALIZED VIEW	いいえ
	HR	91874679888600005	91874679888600005	CREATE TABLE	いいえ
	HR	91874679888600005	91874679888600005	CREATE SEQUENCE	いいえ
	HR	91874679888600005	91874679888600005	CREATE SYNONYM	いいえ
	HR	91874679888600005	91874679888600005	CREATE CLUSTER	いいえ
	HR	91874679888600005	91874679888600005	CREATE INDEX TYPE	いいえ
	HR	91874679888600005	91874679888600005	CREATE DIMENSION	いいえ
	HR	91874679888600005	91874679888600005	CREATE OPERATOR	いいえ
	HR	91874679888600005	91874679888600005	CREATE TRIGGER	いいえ
	HR	91874679888600005	91874679888600005	CREATE TYPE	いいえ
	HR	91874679888600005	91874679888600005	CREATE SEQUENCE	いいえ
	HR	91874679888600005	91874679888600005	CREATE JOB	いいえ
	HR	91874679888600005	91874679888600005	CREATE PROCEDURE	いいえ
	HR	91874679888600005	91874679888600005	CREATE VIEW	いいえ

作成されたスキーマには、基本的なオブジェクトの作成権限が割り当てられています。**これらの権限が無くてもAPEXアプリケーションの作成は可能です**。APEXのアプリケーション開発者は表やビューその他データベース・オブジェクトの作成ができなくなるため、生産性は下がります。しかし、ガバナンスやセキュリティに関連して、そのような要件はあり得るでしょう。

ワークスペースを作成するときに同時にデータベース・ユーザーを作成すると、作成されたワークスペースにデータベース・ユーザーと同名のApplication Expressユーザーも作成されます。

既存のデータベース・ユーザーを指定してワークスペースを作成した場合、最初にワークスペースにサインインしたのち、以下の画面が表示されます。ワークスペースに作成されるデータベース・ユーザーと同名のApplication Expressユーザーのパスワード設定が要求されています。**シングル・サインオン云々の説明はAutonomous Databaseに当てはまらないため、無視して問題ありません**。

APEXアカウント・パスワードの設定をクリックします。



ワークスペースの管理ユーザーの**電子メール・アドレス**と**パスワード**を設定します。

変更の適用をクリックすると、ワークスペースへのサインインが完了します。

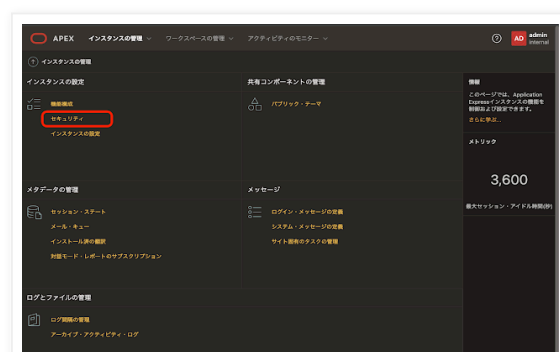
ここで設定するパスワードのポリシーは、データベース・ユーザーのパスワード・ポリシーとは異なります。

Autonomous Databaseのパスワードの複雑性はファンクションCLOUD_VERIFY_FUNCTIONで定義されています。

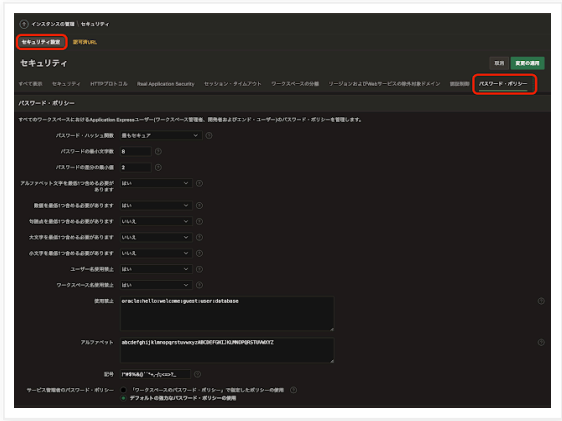
https://docs.oracle.com/cd/E83857_01/paas/autonomous-database/adbsa/manage-user-profiles.html#GUID-81E6B578-C942-4755-A693-33773350B0DA

- パスワードは12から30文字の長さで、少なくとも1つの大文字、1つの小文字、および1つの数字を含める必要があります。
- パスワードにユーザー名を含めることはできません。
- パスワードには、同じユーザー名で使用した過去4回のパスワードのいずれかを設定することはできません。
- パスワードには二重引用符(")を使用できません。
- パスワードは、設定後24時間経過していない同じパスワードにはできません。

APEXのApplication Expressユーザーのパスワードは、**インスタンス管理のセキュリティ**にて定義されています。



セキュリティ設定のパスワード・ポリシーのセクションを確認します。



ワークスペースの作成に直接は関係しない説明も入りましたが、以上が、APEXのワークスペースの作成手順になります。

完

Yuji N. 時刻: 14:11

共有



ホーム



ウェブ バージョンを表示

自己紹介

Yuji N.

日本オラクル株式会社に勤務していて、Oracle APEXのGroundbreaker Advocateを拝命しました。こちらの記事につきましては、免責事項の参照をお願いいたします。

詳細プロフィールを表示

Powered by Blogger.